

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2018年5月)

発表日: 2018年7月9日(月)

～経常収支(季調値)は小幅に黒字縮小も均してみれば堅調～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 伊藤 佑隼  
TEL : 03-5221-4573

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支	
					貿易収支	サービス収支		
2017	5月	16,932	15,896	1,586	3,205	▲ 1,620	15,973	
	6月	9,252	15,544	1,453	2,092	▲ 638	15,982	
	7月	23,471	18,649	4,062	5,136	▲ 1,074	16,469	
	8月	24,007	21,030	5,146	5,749	▲ 603	17,979	
	9月	22,583	18,377	3,993	4,898	▲ 905	16,367	
	10月	21,885	22,961	7,286	5,352	1,934	17,467	
	11月	13,407	18,652	4,036	4,824	▲ 788	16,605	
	12月	7,965	17,335	2,545	2,730	▲ 185	17,063	
	2018	1月	5,924	18,627	4,424	5,257	▲ 832	15,740
		2月	21,082	9,933	▲ 2,845	▲ 2,819	▲ 25	14,686
		3月	31,816	18,276	3,555	4,861	▲ 1,306	16,352
		4月	18,451	18,855	5,200	6,687	▲ 1,487	15,085
5月		19,383	18,500	▲ 937	789	▲ 1,726	21,028	

(出所)財務省「国際収支統計」

## ○経常収支(季調値)は貿易収支の悪化により黒字が小幅に縮小

5月の経常収支(原数値)は19,383億円の黒字(コンセンサス:12,660億円の黒字、レンジ:10,269~17,200億円)とコンセンサスを上回る結果となった。季節調整値では18,500億円の黒字となり、前月(4月:18,855億円)から黒字幅が小幅に縮小した。

内訳を見ると、貿易収支(季節調整値)が、789億円の黒字(4月:6,687億円黒字)と黒字幅を縮小させた。輸出金額(5月:前月比▲1.5%)が減少した一方で、原原油価格の上昇を主因として輸入金額が(5月:同+7.9%)伸びたことで、貿易収支の黒字幅は縮小となった。5月の輸出は月によって振れの激しい船舶が下押し要因になっていることから、今月の貿易黒字の縮小は多少割り引いてみる必要があると考える。輸出については、世界経済が改善基調で推移している中で、均してみれば緩やかな増加基調を維持している。

## ○直接投資収益が大幅増加

5月の貿易外収支(季節調整値)をみると、第一次所得収支は21,028億円の黒字と前月(4月:15,085億円の黒字)から黒字幅が大きく拡大した。直接投資収益の黒字幅拡大(4月:7,538億円黒字→5月:12,155億円黒字)が主因だ。支払いが前月から減少した一方で、受取が大きく伸びており、5月の収益を押し上げている。今月の増加は大型案件による配当受取の増加のような一時的なものである可能性があり、増加幅については割り引いてみる必要があるそうだが、それを除いても直接投資収益は高い水準を維持している。

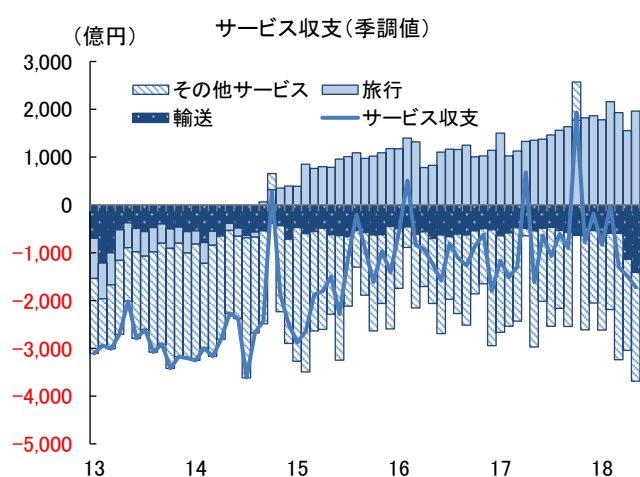
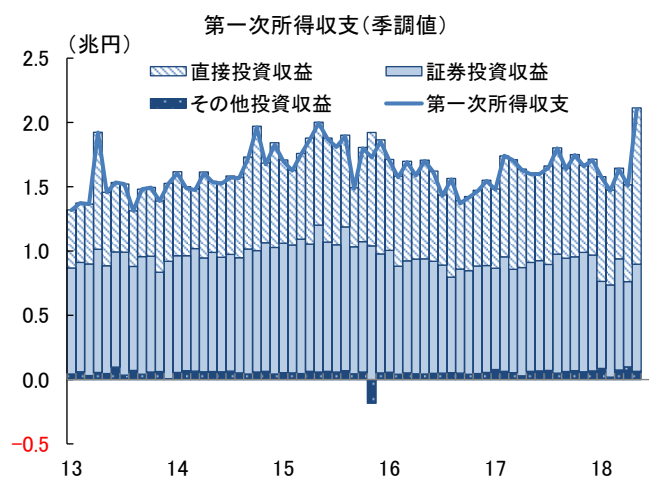
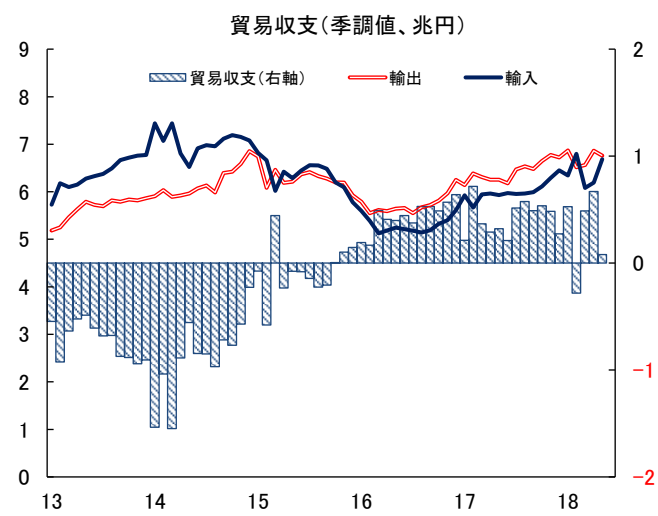
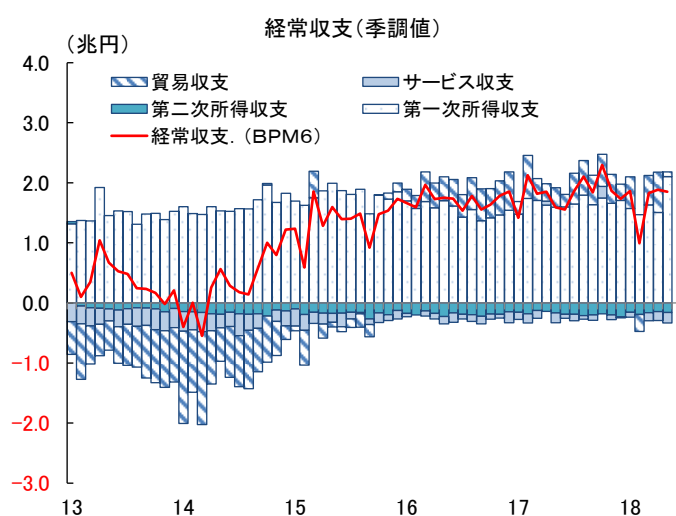
サービス収支は、▲1,726億円と前月から赤字幅が拡大した。内訳をみると、旅行収支は、黒字幅を拡大し

た（4月：1,553億円黒字→5月1,962億円黒字）。訪日外客数が増加基調で推移する中で、旅行収支についても高水準での推移が続いている。一方で、輸送収支（4月：1,135億円赤字→5月：1,411億円赤字）、その他サービス収支（4月：1,906億円赤字→5月：2,277億円赤字）がそれぞれ赤字幅を拡大させたことでサービス収支も前月から赤字幅を拡大させる結果となった。

## ○経常収支（季節調整値）は高水準での推移が続く見込み

以上のように、5月の経常収支（季節調整値）は、貿易収支の黒字幅縮小を受けて、前月から黒字が小幅に縮小した。

経常収支は、先行き高水準での横ばい圏内で推移すると見込んでいる。貿易収支は、輸出が世界経済の改善を受けて緩やかな増加基調を維持する一方で、原油価格の上昇を背景に輸入も増加することで、一段の改善は期待しづらいだろう。所得収支については、世界経済が改善基調で推移していることに加え、為替が円安方向で推移していることなどから、引き続き高水準を維持することが見込まれる。総じて見れば、先行き経常収支は高い水準で横ばい圏での推移を続けると予想する。



(出所)財務省「国際収支統計」